

## 貯蔵法暗記プリント

- 水中に沈めてビンに入れ、さらに砂を入れた缶中に固定して冷暗所に貯える。
- 空気中にそのまま貯えることはできないので、通常石油中に貯える。石油も酸素を吸収するから、長時間のうちには表面に酸化物の白い皮を生ずる。冷所で、雨水などの漏れが絶対ないような場所に保存する。
- 空気中にそのまま貯えることができないので、ふつう石油中に貯える。水分の混入、火気を避け貯蔵する。
- 炭酸ガスと水を吸収する性質が強いから、密栓して貯える。
- 二酸化炭素と水を吸収する性質が強いから、密栓して貯える。
- 冷暗所に貯える。純品は空気と日光によって変質するので、少量のアルコールを加えて分解を防止する。
- 少量ならば褐色ガラスビン、大量ならばカーボイなどを使用し、三分の一の空間を保って貯蔵する。日光の直射を避け、冷所に、有機物、金属塩、樹脂、油類、その他有機性蒸気を放出する物質と引き離して貯蔵する。一般に安定剤として少量の酸類の添加は許容されている。
- 火気厳禁。非常に反応性に富む物質なので、安定剤を加え空気を遮断して貯蔵する。
- 硫酸や硝酸などの強酸と激しく反応するので、強酸と安全な距離を保つ必要がある。できるだけ直接空気に触れることを避け、窒素のような不活性ガスの雰囲気の中に貯蔵するのがよい。
- 少量ならばガラスビン、多量ならばブリキ缶あるいは鉄ドラムを用い、酸類とは離して空気の流通のよい乾燥した冷所に密封して貯える。
- 火気に対し安全で隔離された場所に、硫黄、ヨード、ガソリン、アルコール等と離して保管する。鉄、銅、鉛等の金属容器を使用しない。
- 少量ならば共栓ガラスビン、多量ならばカーボイ、陶製壺などを使用し、冷所に濃塩酸、アンモニア水、アンモニアガスなどと引き離して貯える。直射日光を避け、通風をよくする。
- 容器は気密性容器を用い、通風のよい冷所に貯える。腐食されやすい金属、濃塩酸、アンモニア水、アンモニアガス、テレピン油などはなるべく引き離しておく。
- 容器は特別製のドラム缶を用い、出入を遮断できる独立倉庫で火気のないところを選定し、床面はコンクリートまたは分厚な枕木の上に保管する。
- 銅、鉄、コンクリートまたは木製のタンクにゴム、鉛、ポリ塩化ビニルあるいはポリエチレンのライニングを施した容器を用いる。火気厳禁。
- 亜鉛または錫メッキをした鋼鉄製容器で保管し、高温に接しない場所に保管する。ドラム缶で保管する場合には雨水が漏入しないようにし、直射日光を避け冷所に置く。本品の蒸気は空気より重く、低所に滞留するので、地下室など換気の悪い場所には保管しない。

黄燐

ナトリウム

カリウム

水酸化ナトリウム

水酸化カリウム

クロロホルム

過酸化水素水

アクロレイン

アクリルニトリル

シアン化カリウム

ピクリン酸

臭素

沃素

四エチル鉛

弗化水素酸

四塩化炭素

- 少量ならば共栓ガラスビン、多量ならば銅製ドラムなどを使用する。揮発性が強く、容器内で圧力を生じ、微孔を通して放出するので、密閉するのははなはだ困難である。低温でも極めて引火性である。いったん開封したものは蒸留水を混ぜておくと安全である。日光の直射を受けない冷所に、可燃性、発熱性、自然発火性のものからは十分に引き離しておくことが必要である。
- 常温では気体なので、圧縮冷却して液化し、圧縮容器に入れ、直射日光その他、温度上昇の原因を避けて、冷暗所に貯蔵する。
- 少量ならば褐色ガラスビンを用い、多量ならば銅製シリンダーを用いる。日光及び加熱を避け、通風のよい冷所に置く。極めて猛毒であるから、爆発性、燃焼性のものと隔離すべきである。
- 空気や光線に触れると赤変するから、遮光して貯えなければならない。
- ボンベに貯蔵する。
- 少量ならばガラスビンに密栓し、大量ならば木樽に入れる。
- よく密栓して貯える。
- 少量ならば共栓ガラスビンを用い、多量ならばブリキ缶を使用し、木箱入れとする。引火性、自然発火性、爆発性物質を遠ざけて、通風のよい冷所に置く。
- 火災、爆発の危険があり、わずかの加熱で発火し、発生した硫化水素で爆発することがあるので、換気の良い冷暗所に貯蔵する。
- 揮発しやすいので、よく密栓して貯える。

二硫化炭素

ブロムメチル

シアン化水素

ベタナフトール

水素化砒素(アルシン)

三酸化二砒素(亜砒酸)

亜砒酸ナトリウム

三硫化燐

五硫化燐

アンモニア水